

2023 2/14

No.2180

毎月第2・第4火曜日発行

# 政経 かながわ

一般社団法人  
— 神奈川政経懇話会 —



横浜DeNAベイスターズが1日、チャンピオン。沖縄県のアトムホームスタジアム宜野湾では、ドラフト1位の新人・松尾ら1軍メンバーが汗を流した。



視点点描	3
「週末時計」の針は進む	
講演録	4
「関東学院大学 関内進出の覚悟」 学校法人関東学院理事長 規矩 大義	
経済	8
なぜ読まれる 高額ビジネス書 コスパ = 値段以上の付加価値	
くらし2023	10
少子化対策になる？ 出産育児一時金増	
政治双眼鏡	12
国民の生活実感と深い溝 岸田首相の「リアリズム外交」	
NNAアジア経済レポート	13
かながわTODAY	14
1月の主な経済ニュース	

### 事務局だより

◇2023年3月の講演会  
3月2日(木)午後1時30分～3時00分  
メルヴェーユ「ヴァランセ」(県民共済プラザビル)  
講師：2027年国際園芸博覧会協会事務次長 小林 一美氏  
演題：「2027年国際園芸博覧会の開催に向けて」  
※新型コロナの感染拡大の状況によって中止する場合があります。

【お知らせ】神奈川政経懇話会では、会報「政経かながわ」に会員コーナーを設け、新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局 ☎045 (226) 2121。

# 視点 点描



## 「終末時計」の針は進む

米誌「ブレティン・オブ・ジ・アトミック・サイエンティスト」が先ごろ、人類滅亡を午前0時に見立てた「終末時計」の残り時間を発表した。1947年の創設以来、最短となる「90秒」だった。ロシアによるウクライナ侵攻や、核使用への切迫感が考慮されたそうだ。2020〜22年は残り100秒としていたから、一気に縮

まった。そう、安全保障の専門家の見立てでは、核戦争の脅威が高まっているのだ。経済学のゲーム理論に「囚人のジレンマ」というエピソードがある。こんな内容だ。2人の囚人は、別々の部屋に隔離されている。そこに検察官が現れ、それぞれに司法取引を持ちかける。「お前だけが自白すれば懲

役1年にしてやるが、お前だけ黙秘すれば懲役7年だ。ただし、2人とも黙秘すれば懲役2年、いずれも自白したら懲役5年だ」囚人たちは悩む。相手を信用して黙秘を通せば2年で済む。が、裏切られれば7年の監獄だ。結局、2人とも自白の道を選び、5年の刑期となる。この話は、自分の利益を追求するあまり客観的に最適な解を導き出せないという矛盾をあぶり出す。つまり、核保有に例えれば、核を使われるかもしれない不安から相手国を信用できなくなり、核を増産してしまう。結果、軍事コストは増大し、国際的な緊張感も高まるということだろう。もちろん現実のわれわれは囚人と違って、対話ができる。外交の力で、信頼関係と核削減の履行を検証し合う仕組みを築ければ、最適解を導けるはずだ。

実際に実現した時代もあった。1987年、米レーガン大統領と、ソ連のゴルバチョフ書記長は中距離核戦力（INF）廃棄条約に調印した。2人は将来の「核全廃」にまで言及していたという。思想信条が違ってても、人類共通の脅威を取り除こうと大国のリーダー同士が小さなテーブルで向き合い、歴史的転換を成し遂げた。核兵器の保有数は急速に減ってきたが、現在は増加に転じていると指摘される。国連で核兵器禁止条約が122カ国・地域の賛成で採択、発効されたものの、核保有国は同じテーブルにつかない。そして今、ロシアのプーチン大統領は対話を遠ざけ、核使用をちらつかせている。終末時計の針を逆戻りさせる人類の英知こそ、対話だと思ふのだが。（神奈川新聞社統合編集局次長 三ツジタル編集担当・牧野 昌智）